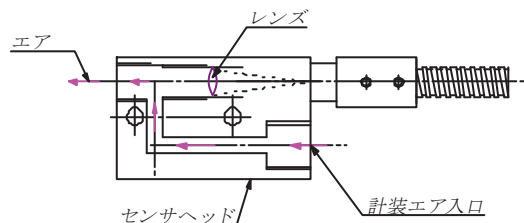


レンズの汚れ防止

粉塵、油、湯気、煙等のある環境下にヘッドを設置すると、レンズ表面が汚れて赤外線が吸収されて温度指示値が低下するという状態になります。このような環境で安定した温度測定を行うには、つぎのようなレンズ汚れ防止対策が必要になります。

1) 計装エア

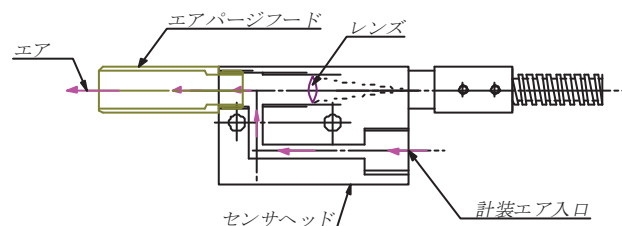
計装エア入力口の付いたセンサヘッドにおいては、計装エアをレンズ前面に微量流すことによってレンズに付着する粉塵、油等を飛ばします。計装エアの流量は1リットル／分程度で十分ですので、エアコントローラ(スピードコントローラ)等によりエア流量を調節して下さい。流量が多すぎますと周囲から粉塵、油等を巻き込んでしまいますので注意して下さい。



また、通常のエアの場合エア内に水、油等が含まれていますので、かえってレンズを汚してしまうこととなりますので注意が必要です。

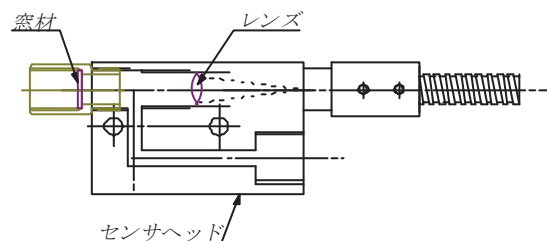
2) エアパージフード

センサヘッドの先端にエアパージフードを取り付けて、計装エアを流すとさらに効果が増します。



3) 窓材

粉塵、油等があまりひどくない場合、レンズ前面に窓材を取り付けます。窓材は簡単に取り付け取り外しが出来るようになっていますので、窓材が汚れてきた時に取り外して清掃します。

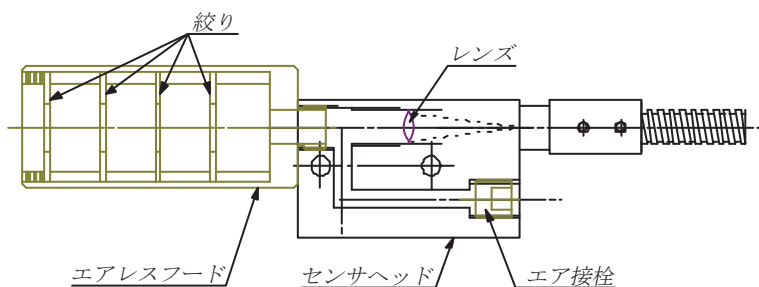


清掃は綿棒の先をほぐし、アルコールで軽く拭き取ります。この時、レンズ表面に傷つけないように注意します。また、溶接のスパッタによるレンズの傷付き防止にも使用できます。

また、溶接のスパッタによるレンズの傷付き防止にも使用できます。

4) エアレスフード

レンズ汚れ防止としてエアを使用した場合、エアによってワークが冷却されてしまうということがあります。このようにエアが使用できない場合、エアレスフードを使用します。エアレスフード



は絞りを数段に設置し、構造的に粉塵等がレンズに到達しにくくしています。エアレスフードを使用する場合、センサヘッドに計装エア用の孔が開いたままでは空気の流れが生じてレンズ面まで粉塵が到達してしまいますので、計装エア用の孔はエア接栓で塞ぐ必要があります。